

現代朝鮮語の統語的相互構文*

黒島規史(東京外国語大学/日本学術振興会特別研究員)

norifumi.964ma@gmail.com

1 はじめに

現代朝鮮語には動詞の能動形と受動形を副動詞の形で結ぶことによって相互性を表す構文がある。(1)では(追う)という能動の動詞の副動詞形に、その受動である(追われる)を続けることにより、参与者二者間で、お互いに追うという行為を行ったことを表している。

- (1) _____ .
「そうして二人は追いかけあった。もちろん最後の勝者はソンファだった。」
[(2013) “ ”]¹

現代朝鮮語の語彙的相互構文については崔昌玉(2010)が詳しく論じているが、本発表で扱う複文による統語的相互構文については先行研究でほとんど扱われていないようである。

本発表では統語的相互構文には形態的な手段によって、主に四つのタイプがあることを明らかにする：能動形と受動形の交替にヴォイス接辞を用いるタイプ、受動形に(受ける)等の準前接辞を用いるタイプ、語彙的受動を用いるタイプ、反意語同士を接続するタイプ。それから代名詞的の統語的振る舞いの特徴を相互構文の特徴ごとに分析する。さらに相互を表す構文は反復(iterative)や強意(intensive)を表す構文と関連があることを指摘する。

本発表の構成は次の通りである：§2でまず語彙的相互と相互的相互の別について確認し、§3では統語的相互構文を四つのタイプに分類する。§4では§3で分類した統語的相互構文のタイプと代名詞的の統語的振る舞いについて、アンケート調査によって簡単に述べる。さらに§5では統語的相互構文と反復、または強意を表す構文との形態的、意味的な類似性について指摘し、最後に§6は本発表のまとめと今後の課題である。

2 語彙的相互構文と統語的相互構文

Haspelmath(2007: 2088)は相互的狀況(mutual situation)を「二人以上の参与者(A, B...)がいる状況において、少なくともAとBの二人の参与者について、AとBの関係とBとAの関係が同じ」とであると定義している。本発表ではこのような相互的狀況を表す構文を相互構文と呼ぶ。

本発表では、語彙的な手段による相互構文と、統語的な手段による相互構文を区別し、後者のみを扱う。崔昌玉(2010)で対象としているのは、助詞‘ / ’を伴う名詞句が現れた場合のみであり、(向き合つて)、(互いに)等の副詞による統語的相互構文を除けば、基本的に語彙的相互構文である。対象には(入り乱れる)、(付き合う)等のヴォイス接辞による派生動詞、(対決する)の

* 本研究はJSPS 科研費JP16J07745の助成を受けたものである。

¹ Google ブックスにて用例検索を行った。出典は末尾に例文番号とURLとともに付す。特に注のない場合は以下同様である。

ように接頭辞 - の付いた動詞, (言い争う), (会う) のように本来的に相互行為を表す動詞などが含まれている。

本研究では (1) のような複文による統語的相互構文を扱っていくが, 副詞 と動詞の単文との置き換えの可否についても考察する。

3 統語的相互構文のタイプ

ここから形態的特徴によって複文による統語的相互構文を分類するが, その前にいくつかこの構文の全体的な特徴について指摘しておこう。

まず, (1) で挙げた例のように文を終止する形ではあまり用いられない。ただし, (やり取りする) のように辞書にも登録され, よく用いられるものについては特にそのような傾向はないようである。また, (お互いに) を用いずとも, この構文のみで相互の意味を表すことができる。

3.1 能動(他動)と受動(自動)の交替にヴォイス接辞を用いるタイプ

まず, 能動(他動)と受動(自動)の交替にヴォイス接辞を用いるタイプを分類することができる。ただし, ヴォイス接辞を用いるタイプの全てがよく用いられるというわけではないようである。

(2) の例では自動詞 (死ぬ) の副動詞形に他動詞 (殺す) が続くことによって, お互いに殺し合うという事態を表している。 が用いられているものの, すでに言及した通り, この副詞がなくても相互の意味になる。あるいは, “ ” を他動詞のみの “ ” に置き換えても相互の意味は表すことができる。もちろんこの場合 は必須である。

(2) _____ .
「こうしてお互いに殺しあう姿を見て, 仏陀は大きな衝撃を受けた」
[(2007) “ ”]

日本語の「殺し合う」も同じだが, というのは, 必ずしも行為者 A と B の両方がお互いを殺し, また死ぬというわけではなく, お互いに殺そうとするという行為を表すことができる。例えば “ (お互いに殺しあった) ” と文を終止する形で言うと, 事態の完了というニュアンスがあり, 不自然になるという。つまり, A が B を殺せば B はもちろん A を殺すことはできないわけである。このように文を終止させると事態の完了を表すということもあり, 文を終止しない形で多く用いられるのではないかと考えられる。他の類例を挙げておこう。

(3) _____ 가 _____ 가 _____ .
「お互いに騙し合うなかで, 疲弊していくのは親戚たちだった」
[(2012) “ ”]

また, 次の (4) のような例は, 今まで見た例とは違い, 他動詞のみの “ ” を能動形のみの “ ” とすると, お互いに食べ, 食べられあうという意味は表せなくなってしまう。

(4) _____ .
「このように生態系のなかで生物たちは互いに捕食される関係にあるんだ」
[, (2012) “ ”]

3.2 受動形にヴォイスを表す準前接語を用いるタイプ

次に、受動形に (受ける) や (こうむる) 等の準前接語²を用いるタイプを分類することができる。前者の例として (紹介しあう lit. 紹介して紹介される), (からかいあう lit. からかってからかわれる), 後者の例としては (利用しあう lit. 利用して利用される), (支配しあう lit. 支配して支配される) のようなものがある。それぞれの用例を挙げておこう。

(5) _____ .
 「履歴書や自己紹介書はお互いに面識がまったくない人たちが文章で互いに紹介しあうものだ」
 [(2011) “ ”]

(6) _____ .
 「比較的理想的な制度だと言われてきた民主主義においてさえ、人々はお互いに支配しあったんだ」
 [(2012) “ ”]

また、 が「食べる」という意味を失い、受動的に使われる 「罵倒される」のようなタイプもここに分類しておく。

(7) 가 _____ 가 _____ .
 「わたしが死んだあと、こんなことで娘夫婦がお互いに罵りあって、他の人たちにまで婿を悪く言わせたくないですよ」
 [82cook.com]³

3.3 受動形に語彙的受動を用いるタイプ

伊藤 (2012: 137) はアンケートに回答する形で「彼らは (互いに) 殴り合っていた」という日本語に対して、二通りの朝鮮語の文を提示している。ラテン文字転写をハングルに置き換え、グロスは割愛する。

(8) a. _____ .
 b. _____ . (伊藤 2012: 137)

(-) は複合動詞として辞書にも立項されている。(打つ) の受動形を (受ける) と見なすことはできないかもしれないが、能動の _____ に対して _____ が受動的な意味を表していると見ることができるだろう。この (8) のような例に、語彙的受動 (殴られる) を用いる (lit. 殴り殴られる) がある。

² 宮岡 (2015) では「本来的な接語と、自立語から (恒常的あるいは臨時的に) 接語化した「準接語 non-enclitics」の 2 種」を区別している。宮岡 (2015: 262-262) は日本語の「(自立) ≠ する-」や「(猫=で) ≠ ある-」の「≠ する」、「≠ ある」を準前接語としているが、本発表で使用する準前接語もこれにならったものである。

³ 用例はインターネットサイト掲示板より引用する。末尾に例文番号と URL をともに付す。

(9) _____ .
 「こうして負けず劣らずの二人は、一日中殴り殴られ、殴り殴られを繰り返した」
 [(2015) “ ”]

3.4 反意語同士を接続するタイプ

反意語を用いるタイプはそれほど多くないようであるが、辞書にも登録されている (やり取りする) がまず最初に挙げられる。例えば, (1998: 1677) では「お互いに与え, またもらうこと」と「お互い交互に話すこと」という二つの意味を挙げている。それぞれ (10) が, (11) が の例文である。

(10) _____ 가 _____ .
 「肉体的健康と精神的健康はお互いが影響を与えあう関係にあるため, どちらの方が大切だと言うことはできない」
 (1998: 1677)

(11) _____ .
 「彼らは低めの声でなんの話か仲良く話し合っていた」
 (1998: 1677)
 については実際に押し引きするという意味ではなく, 「他人と喧嘩腰でやりあう」という意味では (1998: 766) に立項されている (12).

(12) _____ 가 _____ .
 「ミョンフンはそれ以上やりあう余裕もなく相手の望み通り動くしかなかった」
 (1998: 766)

(13) の場合は主体が擬人化されたような例だが, _____ が押し引きするという意味で用いられる用例もある (13).

(13) _____ , _____ 가 _____ .
 「これは少し難しい話ですが, 正電荷と負電荷がお互いに押し引きする力のために生じる現象です」
 [_____ , _____ (2013) “ ”]

その他, 反意語同士で相互を表す例としては _____ (lit. 買って負ける) のような例が考えられる。

(14) _____ . _____ 가 _____ .
 「このように水, 火, 鉄がお互いに相剋する関係として理解されている」
 [_____ , _____ , _____ (2014) “ ”]

4 統語的相互構文と

ここまでは副詞的に 가 が用いられた例のみを見てきたが, 가 は代名詞的にも用いられる。つまり主格や対格助詞が付いて 가 「お互いが」, 가 「お互いを」のように用いることができる。本発表で扱っている統語的相互構文は二つの動詞の自他あるいはヴォイスが異なる場合が多いため, 가 , 가 , 가 (または 가 , 가 , 가) のいずれが動詞句の前に生起可能かということが問題になってくる。

この問題を考察するのに十分な用例数が得られなかったため, 今回は朝鮮語母語話者にアンケートを取り, 簡単な調査を行った。⁴ここまでに挙げた例文, (8)を除く(1)から(14)までそれぞれについて, 元々 가 がある場合には 가 や 가 と置き換えが可能か, 가 がない場合には動詞句の前に 가 や 가 を挿入できるかの判断をお願いした。3名の母語話者をお願いし, 例文の自然さは4段階で判断していただいた: 自然, 少し不自然だが可能, 不自然, 不可能。

今回は自然なら3ポイント, 少し不自然だが可能なら2ポイント, 不自然なら1ポイント, 不可能なら0ポイントと設定し, 3名の合計が7ポイント以上であれば置き換え可能と考えることにする。

下の表1に置き換え可能と判断されたものを提示する。副詞的 가 は全用例で満点の9ポイントだったためここでは除外しておく。[]内の数字は3名の合計のポイント数である。

表1 統語的相互構文における代名詞的 가 の統語的特徴

(1)	가 [8]
(2) _____	가 [9], 가 [8]
(3) _____	가 [9], 가 [8]
(4) _____	가 [9]
(5)	가 [7], 가 [7], 가 [7]
(6) _____	가 [7], 가 [8]
(7) _____	가 [7]
(9)	-
(10) _____가	가 [8], 가 [8]
(11)	가 [8]
(12)	가 [8]
(13) _____	가 [8], 가 [7]
(14) _____	가 [7]

判断には予想以上に個人差があったため確かなことは言えないが, いくつか指摘できることを述べておく。(6), (9), (14)を除いては, 가 への置き換えは自然と判断された。(14)の容認性が落ちたのは, 直前にも主格の名詞句があるからかもしれない。一方, ほとんどの例において 가 のみへの置き換えは不自然だと判断されることが多い。ヴォイス接辞を用いる(1)から(4)を見ると, 가 を許すのは後の動詞が他動詞である。(10)と(11)の 가 , (12)と(13)の 가 を見ると, より本体の意味から離れているほう(11), (12)のほうが置き換えの条件が厳しい。動詞の性質や文全体の統語的な

⁴ 調査に協力していただいたのは釜山出身の女性, 大邱出身の女性, 鎮川出身の男性で, 年齢は各々30代あるいは40代である。

特徴も考慮する必要があるが、今回の調査では以上のことがわかった。最後に上の の点について、次の (15) では、同一の文の中で が と が使い分けられている。このような例を見ると代名詞的の振る舞いに影響を与えるのは、やはり後の動詞なのではないかと考えることができるが、今後さらに調査が必要である。

- (15) _____ , _____ .
 _____ 가 _____ 가 _____ .
 「ワンネットワークに対する捜査網が狭められるにつれ警察とジン会長の間で葛藤する、「パク・チャンゴン」役のキム・ウビンは、互いに追いあい、互いに騙しあうストーリーの緊張感とおもしろさをより一層高めてくれるものと思われます」
 [MBN]⁵

5 相互 (reciprocal) と反復 (iterative), さらに強意 (intensive) との関連

今まで見てきた統語的相互構文は、反復 (iterative) や、さらに強意 (intensive) を表す構文と関連があると考えられる。以下では他の言語の例も参考にしながら、それぞれの意味の関係について探っていく。朝鮮語の反復と強意を表す例については重複 (reduplication) の特徴と見ることもできるだろうが、ここでは構文の形の面の類似性を指摘したい。

朝鮮語には同じ二つの動詞を副動詞形の - で連結させて反復を表す構文がある。例えば次のような例である。下線は引用者による。

- (16) _____ .
 「寝ても、また眠たい」(韓国・国立国語院 2012: 37)

- (17) 가 _____ .
 「胸に積もり積もった恨みが、どうして簡単に解けようか」(韓国・国立国語院 2012: 37)

この構文は本発表で扱っている “V- V” で相互を表す構文と類似している。相互を表す構文と反復を表す構文は形のうえでも類似しているが、意味の面でも共通点があると考えられる。つまり、Nedjalkov (2007: 19) が述べるように相互と反復はともに動作の複数性と関わりがあるからである。ただし、反復の場合は

この相互と反復の関連は中国語においても見ることができる。Liu (1999) は中国語の「V 来 V 去」という構文が相互を表しうることを指摘している。(19) の例は参加者が複数であることで相互の意味が出るが、(18) のように参加者が複数でない場合は反復の意味になるという (Liu 1999: 126).

- (18) Women/nimen/tamen DA-lai-DA-qu.
 1PL/2PL/3PL fight-come-fight-go
 “We/you/they fought with each other” (Liu 1999: 126)

- (19) Wo/ni/ta DA-lai-DA-qu.
 1s/2s/3s fight-come-fight-go
 “I/you/he fought several times (or for a while)” (Liu 1999: 126)

⁵ 用例はインターネットのニュースサイトより引用する。末尾に例文番号と URL をともに付す。

さらに、朝鮮語では同じ二つの形容詞を副動詞形の - でつなぎ、形容詞で表される状態や性質が甚だしいことを表すことができる。これも、朝鮮語の統語的相互構文、上で挙げた反復を表す構文と形態的に類似している。次の例の下線は引用者による。

(20) _____

「とても長い歳月 (長くて長い歳月)」(韓国・国立国語院 2012: 36)

(21) _____

「とても遠い国 (遠くて遠い国)」(韓国・国立国語院 2012: 36)

相互と強意の多義性に関しては、ムンダ語の相互を表すマーカ―が、形容詞と用いられ強意を表す例において見られる。ムンダ語の相互は典型的には -pV- という接中辞によって表される Osada(2007: 1577).

(22) ako-loʔ=le da-pa-l-ke-n-a.
they-with=1PL.EXC.SBJ hit-REC-hit-COMPL-INTR-PRED
“We and they hit each other” (Osada 2007: 1582)

この相互を表す接中辞 -pV- が形容詞と結びつくと ‘very’ という強意の意味が出るという Osada(2007: 1586).

(23) en ma-pa-rang hoRo-ko
that great-REC-great person-PL
“that very great person/those very great persons” (Osada 2007: 1586)

6 まとめと今後の課題

本発表では今まであまり言及されることがなかった朝鮮語の統語的相互構文について、構文のタイプを分類し、代名詞的 の振る舞いについて考察し、他の形態的に類似した構文との共通点を指摘した。本発表で扱った統語的相互構文と類似したパターンは日本語で相互を表す「VつVつ」(例：持ちつ持たれつ) などにも見られる。

今回は用例の分類、代名詞的 の統語的に振る舞いについても初歩的な調査に留まっている。特に代名詞的 についてはアンケートを行ったところ母語話者間で個人差が大きかったため、今後は大規模なコーパスを使ってある一定の傾向がないか調査することが必要であると考えられる。

参照文献

朝鮮語で書かれた文献

- (2005) “ ”, : , (韓国・国立国語院 (2012) 『標準韓国語文法辞典』, 東京: アルク)
- (1998) “ ”, :

日本語で書かれた文献

- 伊藤英人 (2012) 「朝鮮語」(特集「ヴォイスとその周辺」), 『語学研究所論集』17, pp. 128-141, 東京外国語大学語学研究所
- 崔昌玉 (2010) 「現代朝鮮語の相互構文」, 『韓国語學年報』第6号, pp. 1-39, 千葉: 神田外国語大学 韓国語學會
- 宮岡伯人 (2015) 『「語」とはなにか・再考—日本語文法と文字の「陥穽」』, 東京: 三省堂

英語で書かれた文献

- Haspelmath, M. (2007) ‘Further remarks on reciprocal constructions’, V. P. Nedjalkov (ed.) *Reciprocal Constructions* Vol. 4, pp. 2087-2115, Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins
- Liu, Meichun (1999) ‘Reciprocal marking with deictic verbs *come* and *go* in Mandarin’, Frajzyngier, Zygmunt & Curl, Tracy S. (eds.) *Reciprocals: Forms and Functions*, pp. 124-132, Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins
- Nedjalkov, V. P. (2007) ‘Overview of the research. Definitions of terms, framework, and related issues’, V. P. Nedjalkov (ed.) *Reciprocal Constructions* Vol. 1, pp. 3-114, Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins
- Osada, Toshiki (2007) ‘Reciprocals in Mundari’, V. P. Nedjalkov (ed.) *Reciprocal Constructions* Vol. 4, pp. 1575-1590, Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins

用例出典 (括弧内は用例番号)

- (1) (2013) “ ”, https://books.google.co.jp/books?id=Ae64AgAAQBAJ&hl=ja&source=gbs_navlinks_s
- (2) (2007) “ ” Ewha Womans University Press, https://books.google.co.jp/books?id=hO_E5NWwccC&hl=ja&source=gbs_navlinks_s
- (3) (2012) “ ” () , https://books.google.co.jp/books?id=aeW-AgAAQBAJ&hl=ja&source=gbs_navlinks_s
- (4) , (2012) “ ” , https://books.google.co.jp/books?id=2vDYBAAQBAJ&hl=ja&source=gbs_navlinks_s
- (5) (2011) “ ” , https://books.google.co.jp/books?id=b3CvAgAAQBAJ&hl=ja&source=gbs_navlinks_s
- (6) (2012) “ ” 6 , , https://books.google.co.jp/books?id=ZQ_iAgAAQBAJ&hl=ja&source=gbs_navlinks_s
- (7) 82cook.com , <http://www.82cook.com/entiz/read.php?num=1763614> (最終閲覧日 2016 年 9 月 26 日)
- (9) (2015) “ ” , https://books.google.co.jp/books?id=ZwQ5CgAAQBAJ&hl=ja&source=gbs_navlinks_s
- (13) , (2013) “ ” , https://books.google.co.jp/books?id=BZerAgAAQBAJ&hl=ja&source=gbs_navlinks_s
- (14) , , (2014) “ ” 1 , , https://books.google.co.jp/books?id=XIznCgAAQBAJ&hl=ja&source=gbs_navlinks_s
- (15) MBN , http://mbn.mk.co.kr/pages/news/newsView.php?news_seq_no=2701448&page=1 (最終閲覧日 2016 年 9 月 27 日)